

<資料>

流通科学大学オープンカレッジ“兵庫探訪”の巡検ルート

The Excursion Route on “Hyogo Tambo” (the Inquiry of Hyogo pref. Area)
at the Open College Program in University of Marketing and Distribution Sciences

白石 太良*

Taro Shiraishi

オープンカレッジ“兵庫探訪”ではこれまでに 21 の巡検を実施してきた。巡検地は主に兵庫県内であるが、いずれも巡検のテーマを定め、知られざる歴史と文化に焦点を当てて見学地を周遊するルートとなっている。そのため、若干のアレンジをすれば、観光の楽しみと学ぶ喜びを合わせた生涯学習的なルートにすることができる。“兵庫探訪”の巡検ルートは、教養型ツアーのルートを開発するための優れた資料といえる。

キーワード：兵庫探訪 巡検ルート 地域文化 教養型ツアー

I. はじめに

2008 年度に始まる流通科学大学オープンカレッジ“兵庫探訪～かくれた心のふるさとを巡る～”は、主に兵庫県内各地の地理や歴史に関わる講義と、現地見学および郷土史家等の講話からなる巡検とを 2 日間に分けて実施する市民向け教養講座である。一般に、文化講座は座学で行うか現地見学を中心にするかのいずれかが多いなかで、本講座では両者を合わせて 1 講座ととらえている。この形式は受講者に連続 2 回の参加を求めながら生涯学習として一定の評価を得ているが¹⁾、その理由は学ぶ喜びに現地へ出かける楽しみが加わるためであろう。

もちろん、講義に関連した巡検の実施にはルートの策定が必要で、それには担当者の負担など多くの課題があることはすでに報告した²⁾。しかし、結果としていくつもの巡検ルートが開発され、講座の継続とともに蓄積されていった。これらは講座の一部であるから、いずれにもテーマがあり、一般的な観光では訪れる機会の少ない場所に訪れるものであった。したがって、そのルートは業者等が行うバスツアーと差別化され、教養志向のルートという特色を持っている。

そのため、これらのルートに若干の手を加えると、教養型ツアーを企画する業者、個人のいずれにとっても新たなコース展開に結びつくのではないか。そこで本稿では、これまでの“兵庫探訪”の巡検ルートを整理し、その可能性を探る資料としたい。

*流通科学大学名誉教授、〒651-2188 神戸市西区学園西町 3-1

なお、教養型ツアーに特別な定義はない。そこで本稿では、教養を文化に対する広い知識と心の豊かさにとらえ、楽しみとしての史跡や祭事などの見学を越えて、歴史・文化に焦点を当てた生涯学習的ねらいのある周遊型の小旅行を教養型ツアーと呼ぶことにする。

II. “兵庫探訪”の巡検ルート

“兵庫探訪”においてこれまでに実施（一部予定を含む）したルートは、合わせて21コースである。それぞれのコースの概要を地域別に分けて示すと次のようになる。

注：ルートのタイトル、実施時、事前講義題目、行程と主要見学場所、ねらい、見どころの順

1. 阪神間と摂津

A. 猪名川流域歴史散歩 — 弥生遺跡から多田銀山跡へ —

（実施：2010年7月）

（事前講義）多田荘と多田銀山

大学＝尼崎市/田能史跡公園（弥生遺跡）＝伊丹市/有岡城址＝川西市/多田神社＝猪名川町/多田銀山跡＝同/東光寺（木喰仏）＝大学

（市町村名/見学地、以下同じ）

（ねらい）市街地化の進む阪神東部にあって、弥生時代の集落、中世の荘園と武士の台頭、戦国期の争い、近世の鉱山開発と仏像芸術など、時代を越えた歴史と文化にふれる。

（見どころ）注目されるのは、源氏のふるさと多田荘、豊臣家の財政を担った多田銀山、それに猪名川町内に数多く残される木喰仏である。

B. もう一つの宝塚 — 小浜宿と山の宝塚 —

（実施：2008年5月）

（事前講義）宝塚の二つの顔

大学＝宝塚市/小浜宿＝同/市立民俗資料館（古民家）＝同/普光寺（神仏習合）＝同/千苺水源地・波豆八幡＝三田市/有馬富士公園＝大学

（ねらい）宝塚は歌劇と住宅の町というイメージがある。しかし、かつては摂津・丹波を結ぶ街道が通り、北部には開発から残された農村部があって、もう一つの顔に気づく。

（見どころ）市街地に接して宿場町小浜があり、北部では中世の石塔群や伝統家屋、神戸市水道の水源地、戦時中の歴史を秘めたダリヤ栽培（航空兵の興奮剤を採取）などがみられる。

C. 北摂の歴史街道 — 北摂の丘陵部をたどる —

（実施：2013年3月予定）

（事前講義）阪神間の裏庭

大学＝三田市/城下町＝同/花山院＝宝塚市/千苺水源地と中世石塔群＝同・福知山線トンネル

（強制労働跡）＝同/大原野ほか（炭街道と民間信仰）＝猪名川町/多田銀山跡＝大学

（ねらい）兵庫県による北摂里山博物館構想の舞台を歴史の側面からとらえる。平地部を通る主要交通路に対し、丘陵部には炭街道のような暮らしに関わる道があった。

（見どころ）AとBの一部ずつを組み合わせ、これに三田の町並みや花山上皇ゆかりの有馬富士、

明治期のトンネル工事に際しての朝鮮人労働者の歴史が加わる。

D. 有馬温泉への道 ー神崎泊から有馬までー

(実施：2011年7月)

(事前講義)京・大坂から有馬への旅

大学＝尼崎市/神崎の泊跡＝伊丹市/昆陽寺＝宝塚市/小浜宿＝西宮市/生瀬宿＝同/船坂・山口(有馬道の道標)＝神戸市/有馬温泉＝同/有馬鉄道線路跡＝大学

(ねらい) 古来、有馬温泉へ湯治に出かけた人々はどのようなコースを通ったのか。神崎で淀川から上陸したあとの有馬までの陸路をたどって、昔の旅に思いをはせる。

(見どころ) 神崎の泊りに残る遊女塚、有馬道の道標や休息地となった宿場を巡りながら温泉寺に至る。明治以降に有馬への道を変化させた有馬鉄道跡にも注目する。

2. 淡路

E. 震災を忘れないために ー野島断層から生石砲台へー

(実施：2009年6月)

(事前講義)淡路の昔と今

大学＝あわじ市/北淡震災記念公園(野島断層保存館)＝洲本市/江井(線香産地)＝同/伊弉諾神宮(一の宮)＝同・生石公園(砲台跡)＝同・成ヶ島(浮遊物の漂着)＝大学

(ねらい) 阪神・淡路大震災を風化させない願いとともに、観光の島とされている“淡路”の神代のころから現代に至るもう一つの顔を知るねらいがある。

(見どころ) 震源地となった野島断層、国生み神話の伊弉諾神宮、幕末期の砲台跡、線香工場など見どころは多い。大阪湾の浮遊ゴミが集まる成ヶ島は環境問題を考える場所である。

F. 国生み神話の世界 ー淡路瓦と離島“沼島”ー

(実施：2010年12月)

(事前講義)南淡路と沼島の風土

大学＝南あわじ市/産業文化センター(淡路瓦産地)＝同/うずしお科学館＝同/土生～同/沼島(国生み神話の島)～土生＝大学

(ねらい) 沼島は古代から漁業の島、船乗りの島として栄え、国土創生神話の“おのころ島”ともいわれている。神話の世界を感じるのも歴史探訪のねらいの一つである。

(見どころ) 代表的な地場産業の瓦生産を知ったうえで、離れ島の沼島を訪れる。勾玉の形をした沼島には、伊弉諾命・伊弉美命の神話を彷彿とさせる所が多い。

3. 播磨

G. 播磨灘沿いの歴史散歩 ー高砂・室津・坂越ー

(実施：2009年11月)

(事前講義)瀬戸内の風待港

大学＝明石市/屏風ヶ浦(明石人腰骨発見地)＝高砂市/高砂神社(相生の松)＝同/石の宝殿(巨石)＝たつの市/室津(港町)＝赤穂市/坂越(港町)＝同/赤穂海洋科学館＝大学

(ねらい) 瀬戸内はかつての主要交通路であった。海岸沿いに残る停泊地の町並みから海運の歴史を偲ぶことを第一のねらいとし、加えて人類史や芸能の歴史などにもふれる。

(見どころ) 朝鮮通信使の上陸で知られる室津のほか、高砂、坂越には古い町並みが残る。古日本人と騒がれた人骨の発見地、謡曲高砂の相生松、巨石伝承の石の宝殿なども見学する。

H. 東播磨のまちおこし ―酒米と紙のふるさと―

(実施：2008年12月)

(事前講義) とり残された町のまちおこし

大学=多可町/中村町コミセン=同/余暇村公園(銅精錬所跡)=同/東山円墳群=同/杉原紙研究所(和紙生産)=丹波市/葉樹葉草園=西脇市/日本のへその碑=大学

(ねらい) 和紙生産の復活や葉草栽培の伝統継承、酒米「山田錦」の産地に着目した活性化策など、歴史や文化を活かす実践例を知る。地域住民との交流もテーマとなる。

(見どころ) 特色ある地域活動は一種の観光資源であり、リーダーとの対話、紙漉き体験などを行う。日本のへそは、東経135度と北緯35度とが交わるところから名付けられた。

I. 銀の馬車道をたどる ―生野から姫路まで―

(実施：2010年11月)

(事前講義) 生野街道と銀の馬車道

大学=朝来市/口銀山=神河町/銀の馬車道跡=同/福本陣屋跡=市川町/屋形(町並み)=福岡町/柳田國男生家=姫路市/日本玩具博物館=同/イーグレ姫路(城下町展望)=大学

(ねらい) 播州と但馬を結ぶ市川沿いに、生野鉾山と飾磨港を結ぶ馬車道が明治期に造られた。日本初の高速道路ともいわれる道をたどるのがねらいである。

(見どころ) 建設当時の姿を残す馬車道は産業遺産ともいえ、移動それ自体が見どころになる。ルートに沿って、歴史ある町並みや四間取り民家の典型柳田國男生家などがある。

J. 昔の播磨・新しい播磨 ―聖徳太子の投げ石と播磨テクノポリス―

(実施：2012年5月)

(事前講義) 勝示石と鶴庄

大学=たつの市/播磨科学公園都市(先端技術産業・スプリング8)=太子町/歴史資料館(地域史)=同/斑鳩寺(聖徳太子像)=同/平方勝示石=同/太田勝示石=大学

(ねらい) 法隆寺の荘園があった太子町で土地開発の歴史に思いをはせ、播磨科学公園都市では新しい播磨のシンボルを知る。時代を異にする二つの播磨にふれる。

(見どころ) 太子町には聖徳太子の投げ石と伝える勝示石が残り、伝承と歴史の錯綜をうかがわせる。世界に誇



写真1. 学芸員による聖徳太子の勝示石の解説
(2012年5月12日 白石写す)

る実験施設のあるテクノポリスは街そのものが見どころである。

K. 西播磨の知られざる文化 ー平福の町並みと千種鉄の里ー

(実施：2009年12月)

(事前講義)：中国山地とたたら鉄

大学＝佐用町/平福(宿場町)＝宍粟市/河呂(農村舞台)＝同/天見屋たたら学習館(製鉄跡)＝同/ちくさ高原(スキー場)＝同/伊沢の里(温泉)＝大学

(ねらい) どこにでもあるような中山間地にも、地域の特性を生かした人々の営みがみられたことを知る。特に、中国山地では、製鉄が重要な仕事であったことを考える。

(見どころ) 千種川遡行の終点平福には宿場の町並みが残され、谷筋上流部にはいくつもの農村舞台が健在である。源流近くに砂鉄から鋼を造った「たたら」の集落跡がある。

L. 西播磨の変貌 ーミニ独立国しろう森林王国ー

(実施：2008年7月)

(事前講義) 宍粟の風土と暮らし

大学＝宍粟市/伊和神社(一の宮)＝同/波賀城址(山城)＝同/原不動滝＝同/フォレストステーション波賀＝同/国見の森公園(CSR)＝大学

(ねらい) 旧宍粟郡では県のレクリエーション地域整備と連携した活性化に努めている。歴史探訪としては若干異質だが、かえって日本の原風景を垣間見ることができる。

(見どころ) 播磨一の宮や中世山城の波賀城址などを除けば歴史資源は少ないが、日本滝百選の一つ原不動滝やモノレールで登る国見の森なども見学地となる。

4. 丹波・但馬

M. 小城下町と分水界 ー篠山と柏原、そして水分れー

(実施：2008年11月)

(事前講義) 歴史ある町の魅力

大学＝篠山市/田松川(運河)＝同/八上(山下集落)＝同/河原町(商家群)＝同/篠山城址＝同/御徒士町(武家屋敷)＝丹波市/柏原陣屋＝同/水分れ公園＝大学

(ねらい) 城下町の町並みと城址から近世初頭の篠山の役割を考えるとともに、谷中分水界の実際にふれるので地理巡検としての特色も兼ねる。

(見どころ) 伝統的建造物群保存地区として知られる篠山、篠山築城前の城下町八上、陣屋町柏原、武庫川と加古川を結ぶ運河、日本海と太平洋の中央分水界など見学箇所が多い。

N. 山陰への入り口 ー丹波から但馬への道ー

(実施：2012年10月)

(事前講義) 但馬といふ国

大学＝丹波市/遠阪峠＝朝来市/粟鹿神社(一の宮)＝養父市/青谿書院(漢学塾)＝豊岡市/国府国分寺館(但馬国府跡)＝同/隆国寺(襖絵)＝大学

(ねらい) 但馬は県南部とは気候風土が違い、歴史的には山陽側と対立さえしてきた。山陰への入り口に集積する文化資源をたどりながら但馬という国について考える。

(見どころ) 今はトンネルで通る遠阪峠の麓にはかつて宿駅があった。未だに位置が確定されない但馬国府跡、二つある但馬一の宮のうちの一つ粟鹿神社などが見どころである。

O. 2つの日本最大級 ー天空の城と地下発電所ー

(実施: 2011年11月)

(事前講義) 中世の城郭/揚水発電

大学=朝来市/奥多々良木発電所=同/竹田(町並み)=同/山城の郷=(山上駐車場経由)…竹田城址(山城の城郭)…山城の郷=同/神子畑(選鉱所跡)=大学

(ねらい) このルートには二つのねらいがある。第1は要塞としての中世山城の実際にせまることであり、第2は揚水式発電所から自然エネルギーの大切さを見直すことである。

(見どころ) 山頂に残る石垣が遠望できるため「天空の城」と呼ばれる竹田城と麓の町並み、地下100mに建設された揚水式の奥多々良木発電所をともに時間をかけて見学する。

P. 但馬を支えた産業 ー鉱山と養蚕のあとー

(実施: 2009年4月)

(事前講義) 明延鉱山変遷史

大学=養父市/水芭蕉公園=同/養蚕記念館(天滝遠望)=同/蔵垣(養蚕農家集落群)=同/明延(鉱山集落と旧坑道)=朝来市/神子畑(選鉱場跡)=大学

(ねらい) かつて養蚕・牛の飼育・明延鉱山が経済を支えた旧大屋町に焦点を当て、観光に活路を見出そうとする状況に注目しながら地域と産業の関わりを考える。

(見どころ) 水芭蕉の南限地と養蚕農家の家並みに加え、明延鉱山とその周辺では旧坑道や鉱山住宅、一円電車、選鉱所跡など価値ある産業遺産を目にすることができる。

Q. 但馬の隠れ里 ー但馬牛のふるさとー

(実施: 2010年5月)

(事前講義) 但馬牛誕生の経緯

大学=香美町/小代物産館…スッポンとチョウザメ養殖場…但馬牛飼育農家=同/久須部(溪谷と温泉)=同/全国石楠花公園=同/但馬大仏=大学

(ねらい) 袋小路状に国道9号からはずれた香美町小代は但馬牛(蔓牛)の故郷であり、また多くの杜氏を送り出したところでもあった。ここでも産業の変化を主なテーマとしている。

(見どころ) 但馬牛の飼育農家や内水面漁業、観光振興に向けた公園づくりなどは、庶民の暮らしを知る意味から教養型巡検ならではの見学地といえる。

5. 兵庫県以外

R. 大阪北郊の知られざる歴史 ー隠れキリシタンの里ー

(実施: 2011年5月)

(事前講義) 茨木の隠れキリシタン

大学=茨木市/椿本陣=同/下音羽・高雲寺・見山(キリシタン墓碑・遺物)=同/千堤寺・キリシタン遺物史料館=能勢町・妙見山=大学

(ねらい) 大阪近郊にある隠れキリシタンの里はあまり知られていない。身近な山里に残る苦難

の歴史に重点をおきつつ、妙見山を加えて民衆の信仰について考える。

(見どころ) 大正年間に茨木市北部で発見されたキリシタン遺物は、史料館のほか寺院の境内、個人宅などに残される。妙見信仰の山頂集落、西国街道沿いの椿本陣も加える。

S. 南河内歴史散歩 一河内鑄物師・狭山池・仁徳陵一

(実施：2011年12月)

(事前講義) 産業先進地としての南河内

大学＝堺市/廣國神社(河内鑄物師顕彰碑)＝同/みはら歴史博物館(黒姫山古墳)＝大阪狭山市/狭山池博物館(古代の土木工事)＝堺市/大仙陵(伝仁徳天皇陵)＝大学

(ねらい) 巨大な古墳群が象徴するように、南河内は大和と大阪湾を結ぶ要衝の地であった。このルートでは、技術先進地の歴史と文化をたどるのをねらいとしている。



写真2. 郷土史家による河内鑄物師顕彰碑の説明
(2011年12月10日 白石写す)

(見どころ) 日本最初の灌漑池である狭山池、世界最大級の墳墓大仙陵など古代の土木工事を巡る。古代～中世に金属鑄造集団を形成した河内鑄物師跡も見どころである。

T. 国境いの歴史地理 一山城・摂津国境の史跡一

(実施：2012年7月)

(事前講義) サカイの場所

大学＝島本町/歴史文化資料館・櫻井駅跡＝同/水無瀬宮＝同/関大明神＝大山崎町/離宮八幡＝同/歴史資料館＝同/山崎合戦の古戦場＝向日市/長岡京大極殿跡＝大学

(ねらい) 山城・摂津国境に集積するさまざまな史跡を訪ねながら、京の都とその外側との関わりなど、ウチとソトの接点に当たる境の場所の意味を考える。

(見どころ) 楠木父子が別れた櫻井駅、ソトの世界に造られた二つの離宮、天下分け目の山崎合戦古戦場、境界神を祀り関所があった関大明神など、境界に関連する史跡が多い。

U. もう一つの奈良 一環濠集落稗田と寺内町今井一

(実施：2012年12月予定)

(事前講義) 環濠集落と寺内町

大学＝大和郡山市/郡山城址・城下町＝同/稗田(環濠集落)＝橿原市/今井(寺内町)＝同/橿原神宮＝大学

(ねらい) 古代史に目を向けがちな奈良であるが、中世以降は自らの力で地域を守る集落が形成されていった。暮らしの舞台に刻まれた歴史の跡を環濠集落から探る。

(見どころ) 稗田では模式的ともいえる環濠集落の形態が見られ、今井には伝統的建造物群保存地区に指定された寺内町の町並みがある。近世城郭の郡山城も見どころである。

Ⅲ. 教養型ツアーコースへの展開

1. “兵庫探訪”の特徴

オープンカレッジの巡検ルートを一般的な教養型ツアーコースへ展開させるには、この巡検の特徴を抑えておく必要がある。

最も重要な特徴は見学地設定の基準にある。一般に、歴史探訪とか文化紀行と称するツアーでは、教科書的な城址や史跡、神社、仏閣、名園や芸術作品、町並みなどを巡るものが多いように思われる³⁾。これに対し本巡検では、それらを含む場合もあるが、著名な名所旧跡やその時どきに関心と呼んでいる場所は避けることが多い。むしろ民俗文化とか庶民の生活史、地域の産業などを重視し、いわば全国区の文化に対する土着の文化を探ることに目標をおいている。加えて、ルートによっては現代の暮らしを組み込む場合もある。

したがって本巡検では、さまざまな人びとの永年にわたる営みの跡をたどり、暮らしの舞台すなわち生活空間としての地域そのものを見学地としていると言ってもよい。講座のサブタイトルを「かくれた心のふるさとを巡る」としたのも、知られざる地域の姿から感動を得てもらえればとの願いによっている⁴⁾。

上のような目標のためには十分な見学時間が必要である。しかし、団体で日帰りという制約から、効率を考えて現地到着後も可能な限りバスで移動している⁵⁾。バスによる移動は、徒歩に比べ観察の精度が劣る面がないとはいえないが、主要見学地を省略するわけではないし、むしろ可能な範囲で見学地を多くできる利点がある。さらに、ルート全体の広がりの中に見学地を位置づけながら地域を知るには効果的という側面もある。

広域的な観察に関連して、市町村等が策定する見学ルートとの相違は、本巡検の特徴の一つといえる。市町村等が推奨するルートは、主に歴史に関わる地域文化の発信をねらいにしており、その多くは行政域という地域単元にこだわる傾向が強い⁶⁾。しかも、地域自慢の文化財の全てを網羅したいとの願いがあって、かえって地域らしさが見えにくいという側面も見受けられる。一方、本巡検のルートのなかには、特定の市町村に重点を置いたものもあるが、多くは行政域にとらわれずに広域的な枠組みのもとでテーマを設定し、実施している。

運営上の特徴についてもあげておく。オープンカレッジの一環であるから、いずれも発着地を大学とするルートであること、参加者を30名以内に限定していることなどがそれである。また、自由行動の時間が少なく、買い物や食事に重点を置いていない⁷⁾。そのため、旅行会社等が募集

するツアーのように、集合場所やバスの台数の融通とか、食事内容の魅力、土産物購入などはない。特に重視するのは定員の制限である⁸⁾。狭隘な道路を通る場合も少なくないほか、解説の徹底や頻繁な乗降に配慮して、中型バスを利用して補助席は使用しない。費用に関しては、講座の主目的たる講義（巡検にとっては事前研修に相当する）と合わせて一定額を徴収する。

2. 巡検ルートの分類

a. 巡検ルートとキーワードの一覧

それぞれの巡検の内容は既にあげたが、相互の比較を容易にするために、ルート名とキーワードを再掲しておく。

ルート	キーワード
A. 猪名川流域を下流から上流へたどる	弥生遺跡・中世荘園・鉾山跡・仏像美術
B. 知られざる宝塚を巡る	宿場町・水源地・花卉栽培・石造美術
C. 北摂の丘陵部を東西に巡る	城下町・民間信仰・トンネル工事・鉾山跡
D. 尼崎から有馬温泉へ有馬道をたどる	街道・宿場町・温泉・廃線跡
E. 淡路島の北部を巡る	野島断層・国生み神話・淡路線香・砲台跡
F. 神話の島「おのころ島」へ渡る	国生み神話・水夫の島・漁村・淡路瓦
G. 播磨灘沿岸を東西にたどる	明石人・風待ち港・町並み・巨石文化
H. 歴史を活かしたまちおこしを知る	酒米山田錦・紙漉き・薬樹・日本のへそ
I. 生野鉾山の専用馬車道をたどる	銀の馬車道・町並み・民家・日本玩具
J. 新旧二つの東播磨の姿を知る	テクノポリス・中世荘園・勝示石
K. 千種川上流域を探る	宿場町・農村舞台・たたら製鉄跡・高原開発
L. 県民オアシス構想の舞台を巡る	名瀑・公共温泉・CSR公園
M. 丹波の二つの盆地を巡る	城下町・街並み・分水界・運河
N. 丹波と但馬の国境を探る	峠越え集落・一の宮・国府跡・漢学塾
O. 朝来市の二つの地域資源を尋ねる	揚水発電・中世山城・天空の城
P. 旧大屋町の産業の変化を知る	鉾山跡・養蚕農家・水芭蕉南限地・観光開発
Q. 旧美方町の産業の変化を知る	但馬牛・内水面養殖・観光開発
R. 北摂の秘められた歴史にふれる	隠れキリシタン・本陣屋敷・妙見信仰
S. 古代・中世の技術史にふれる	河内鑄物師・灌漑池・巨大古墳
T. 天王山山麓の史跡を巡る	離宮跡・関所跡・国境・古戦場
U. 二つの防御集落を巡る	城下町・環濠集落・寺内町



地図 “兵庫探訪”の巡検ルート

(兵庫県外を除く。()は関係市町名、●は起・終点)

b. 見学内容による分類

いずれの巡検も複数の見学地に訪れており、ときには巡検テーマが二つのこともある。したがって全て複合的ではあるが、特に焦点を当てた内容によりA～Uを分けると次のようになる。

- 城址と城下町 M・Oの各ルート
- 民衆史・民俗 B・C・D・F・K・Rの各ルート
- 産業史・技術史 A・E・I・K・P・Q・Sの各ルート
- 集落と町並み B・G・Uの各ルート
- 歴史地理 A・J・N・Tの各ルート
- 現代の社会経済 H・J・L・Oの各ルート
- 地形 E・Mの各ルート

(注：A・B・E・J・K・M・Oルートは2つのカテゴリーに含まれる)

c. 巡検の範囲による分類

比較的狭い範囲に集積する見学地を巡るもの、複数の地域を訪れるもの、移動経路に意味があるものに分けられる。もっとも、いずれとも決めにくい場合もあり、厳密な分類は難しい。

狭い地域内を巡るルート F・H・P・Q・Tの各ルート

複数地域へ訪れるルート B・E・J・K・L・M・N・O・R・S・Uの各ルート

移動経路が特徴のルート A・C・D・G・Iの各ルート

3. 教養型ツアー開発の課題

これまであげてきた巡検ルートをツアーコースに変容させるには、それなりの工夫が必要かもしれない。なぜなら、生涯学習的な役割を重視する教養型ツアーといっても、顧客の満足度からは一般的なツアー⁹⁾の要素、たとえば食事の内容とか時間のゆとりなども無視できないためである。また、文化に関わる企画ツアーによくあるような文化財の特別公開とか、有名講師の講話などといった付加価値が求められることもある。

しかしながら、教養型ツアーでは、上のような問題点は必ずしも重要な意味をもたないことも多い。というのも、ツアー参加者が第一に期待するのは、知られざる地域文化そのものに自らが接する感動と知的喜びといった学習的な要素であることによる。したがって、その行程で必要な食事とか自由時間といった要素は、一般的な観光行動のなかの史跡見学や社寺参拝などでは大切となるが、このタイプのツアーでは二次的ではない。

ただ、“兵庫探訪”の巡検ルートでは、見学地を多くする傾向があつて時間配分に余裕がないくらいがあるので、見学地の精選を図らねばならないだろう。講話については必ずしも必要ではないが、いくつかの巡検で試みてきたように、有名講師ではなく見学地在住の郷土史家とかボランティアガイドとの連携が望ましい。

教養型ツアーの開発で最も重要なのは、テーマとルートの決定、見学地の選択である。なぜなら、教養型と称するのはツアーに学習的なねらいがあるはずだからである。このうちテーマについては、地域の歴史や文化、民俗などが中心となるので、ツアーを企画する側のそれらに対する学識とか理解度が求められるかもしれない。ルートと見学地は、見学対象となる文化資源の粗密のほか受け入れ態勢の状況によって違ってくるが、祭事のような日時が限られるものや季節性のあるものの見学はやや難しくなる。また、日帰りといった時間的制約、バス利用の場合は駐車場の有無や道路の広狭といった物理的条件への配慮も必要である¹⁰⁾。

4. 教養型ツアールートへの改変例

“兵庫探訪”の巡検ルートは、どのようにすれば教養型ツアーのルートになるか。その改変の例をいくつかあげてみたい。

巡検では、上にあげた課題を含みながらも、一般的な観光コースでは取り上げにくい地域や歴史・文化資源をルートのなかに取り込んでおり、多くの場合そのまま教養型に転用することができる。中山間部の暮らしに焦点を当てた巡検Kの千種川上流域、産業の変化に注目した巡検Pの旧大屋町域などはその代表例である。また、巡検Jの聖徳太子の勝示石とか巡検Oの竹田城のように、異種の見学地を合わせて幅を広げ、ルート化しているものもある。

しかし、若干のアレンジを行えばより一層魅力のあるルートへ変化させることができる。例えば、テーマに合わせた見学地の取捨選択では、次の改変が考えられる。

巡検D：有馬温泉への道というテーマは、かつての湯治客が徒歩でたどったコースの追体験であるから、有馬鉄道線路跡を省略して温泉入浴を加えることが考えられる。

巡検G：播磨灘沿いの歴史散歩の場合は、明石人腰骨発見地などを省いて、高砂・室津・坂越といったかつての風待・潮待港の町並みから水運の歴史をしのぶことに特化させる。

巡検I：産業遺産ともいえる日本初の専用道路、銀の馬車道を忠実にたどることをねらいとしているので、道路と関係しない場所を除いて終点の飾磨まで訪れる。

ルートのなかに比較的良好に知られた場所を含む場合は、見学地のとらえ方を変えるとか周辺にある別種の資源にも注目を向ける必要がある。

巡検M：小城下町篠山では、中心部の町並みだけでなく、八上集落などを含めて篠山築城史の視点からとらえる。そのため、柏原の見学は省く。また、運河建設や分水界に表れた盆地の地理的位置に関心をもたせるような改変も可能である。

巡検T：山崎といえば天下分け目の合戦が知られるが、古戦場は天王山そのものではないことに注目する。重要なのは、山城・摂津国境に集積する史跡や社寺などから、境の場所が持っている意味を考える機会にすることである。

見学する地域が近接する場合、二つのルートを組み合わせてまとめることも考えられる。この場合、巡検テーマをいかに設定するかが重要となる。

巡検EとF：いずれも淡路島を巡るルートなので、巡検Eから野島断層や砲台跡など、巡検Fからは淡路瓦の生産を除き、伊弉諾神宮やおのころ神社、それにおのころ島に擬される沼島を訪れる。国生み神話という神代のロマンを膚で感じ取るルートにするのである。

巡検AとB：巡検Aは猪名川流域、巡検Bは宝塚市域を巡るもので、前者は史跡と文化財、後者は集落や暮らしを主な見学対象にしている。これを丘陵部に範囲を絞って東西にたどるルートとし、民衆の生活文化を探るというテーマのもとに編成する。文字通り「かくれた心のふるさとを巡る」ルートであるが、2013年3月実施予定の巡検Cはこの視点によっている。

IV. まとめ

歴史や文化を対象としたツアーは、著名な社寺や史跡の見学、文化財の拝観、時には社会的に

話題となっている場所¹¹⁾に訪れる観光の形で活発に行われている。これに対し、地域史に焦点を当てたツアーは必ずしも盛んではない。しかし、各種文化団体とか同好会、教育・研究組織などが開催する見学会が各地にあって、いずれも相当数の参加者を集めていることも事実である。ただ、見学会の場合は、比較的狭い範囲内を詳細にかつ徒歩で廻ることが多く¹²⁾、参加にはそれなりの関心と意識が必要なようである。

この状況のなかで、歴史・文化を物見遊山的ツアーのなかに取り入れるだけでは満足せず、かといって興味はあるが強い探究心を持って地域史に接するのには躊躇する人びとも少なくない。とすれば、彼らが求めるのは、見知らぬ地を周遊する旅の楽しさを味わうと同時に、「ここにはこのような歴史や文化があるのか」などと学ぶ喜びを味わうことのできるような観光である。これを言い換えれば、教養志向のツアーということになるのではないか。教養型のツアーは現在の観光の主流ではないが、高齢化した社会と生涯学習へのニーズの高まりとともに、今後はそれへの要望が増えていくものと思われる。“兵庫探訪”の参加者に高齢者のリピーターが多く、回数の増加を望む声が聞かれることに、その兆しを伺うことができる¹³⁾。

学習的なねらいのあるツアーの実施に当たっては、観光をしながら新たな知識を得た満足感を参加者に実感してもらえるようなルートが必要となる。このとき、“兵庫探訪”の巡検で実施したルートは、県内を中心に訪れる機会の少ない場所に出かけ、必ずしも著名ではないが人びとの暮らしに関わる歴史や文化に焦点を当てていることから、教養型のツアーを企画する人びとにとってルート開発の参考資料になるものとする。

(付記)

教養型ツアーは、観光客を受け入れる地域の知られざる歴史・文化資源の発掘と発信になるので、該当地域の「まちづくり」に寄与できることも注目しておきたい。それは観光による収入増もあるが、むしろ住民が自らの地域に誇りを抱く契機となるためである。筆者は、上記の「ルートC. 北摂の歴史街道」の該当地域の一部で資源の発掘とそのルート化へ向けた実践活動を行っており、住民対象の教養型モニターバスツアーを実施した。

なお、2013年度前期の“兵庫探訪”では、「いにしへのベイエリアをたどる」(西宮～堺)、「西播磨史の舞台を訪ねる」(上郡～佐用)、「鬼の里の虚と実を探る」(福知山・大江山)の3つのルートを開発中である。

- 1) 2012年5月の講座時におけるアンケートでは、回答者29名全員が「生涯学習としてよい形式だ」と回答している。なお、この設問の選択肢は、上記のほかに「講義のみでよい」「ツアーのみでよい」「どちらともいえない」の4つであった。
- 2) 白石太良：日帰り巡検をとりいれた市民講座の試みー流通科学大学における事例からー 流通科学大学論集ー人文・社会・自然編、第23巻第1号、流通科学大学学術研究会、pp. 149-160、2010年（本稿はその続編である。）
- 3) 例えば兵庫県文化協会主催「ふるさと文化紀行」の2012年度計画では、5月平清盛ゆかりの寺院と丹波古陶など、6月山陰ジオパーク、7月湯浅（和歌山県）の町並み、10月大河ドラマ「平清盛」ロケ地、11月久保惣美術館（大阪府）、2月大塚国際美術館（徳島県）となっている。
- 4) 具体的には、「ここにこんな歴史や暮らしがあると知らなかった」「地名は知っているが来たことがない」「人びとの暮らしを覗いて良い勉強をした」などの感想を参加者から得られることに期待しているとも言ってもよい。
- 5) 高齢の参加者が少なくないため、徒歩区間を少なくするねらいもある。
- 6) 近年増加しつつある各地の観光ボランティアガイドも市町村ごとに組織される場合が多い。彼らの案内エリアはそれぞれの市町村内であって、ルート観光には対応できにくい。
- 7) 昼食は個人負担であるが、低額にするため事前に団体予約を行うことが多い。可能な範囲で見学地の特産物を一品でも昼食に加えるようにしている。
- 8) 参加希望者の増加とともに定員増を望む声が大きく、ルートによっては10名程度の増員を検討している。
- 9) 周遊型の小旅行をさすツアーの話は、日本ではしばしば旅行会社等が募集する団体観光旅行の意で用いられる。
- 10) バスによる巡検で意外と忘れがちなのは駐車場の確保である。道路についても、通過ができるかどうかのほか、Uターンや離合の可否に注意しておかねばならない。
- 11) 社会的に話題となっている場所とは、テレビドラマなどで取り上げられて有名になり、人びとが興味を持った場所をいう。
- 12) 比較的狭い範囲とは、市町村域のうちで文化財が集積するところをいう。郷土資料館等が主催する見学会にこの傾向が大きく、いわゆるボランティアガイドも案内の範囲を市町村域内とする場合が多い。
- 13) 前掲1)のアンケートのほか、事務局に寄せられた意見による。“兵庫探訪”ではいずれのルートもキャンセル待ちが多い。